

繪本和比事卷之九

目錄

宗祇 宗初 肖柏 紹巴 貞極 芭蕉 西鶴

心敬 為明 宗長 宗經 宗因 季吟 三子風

繪本和比事卷之九

守武

雄長老

玄旨

一体

月彦

玄室

行重

長肅

ト養

立圃

冬彦坊

傳教大師

夢窓圓師

道寸

海永

尋求

碓河智葛事

繪本和比事卷之九

此卷小

連哥

誹惜

狂哥ホの達人

名句秀逸の世の人口

ヲ

称嘆せは哉

拾ひ集めく其あつら

成

繪岡よ歌

繪を好む人如

梗既ホ

備ふ

敬心



柳

りり

うり

なごさ

川

祇宗



八月十五夜
 月見酒
 宗祇の
 御膳
 宗祇の御膳

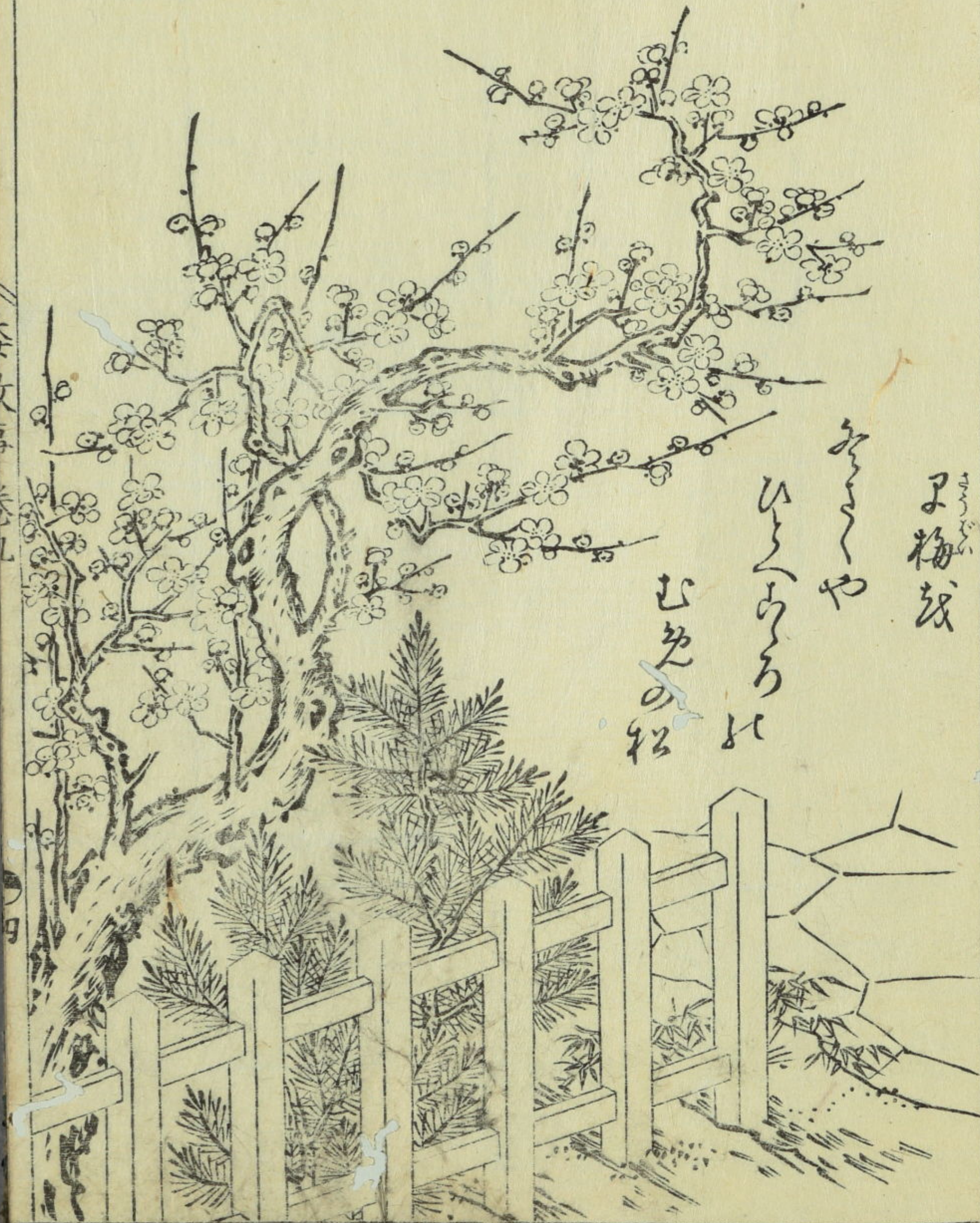
あけはな

つら

秋の月

傳故事卷六

梅 枝



子梅枝

あまのや

いさゝか

むすの松

宗 碩



るの松

うしろの松

後 故 事 卷 九

宗長

吹く
風
の
心
の
こころ
も
も



能柳

一
の
こころ
の
こころ
も
も



能柳

十月二十日
雪のふりしつらぬ

いつらりの

いづれや

きのう

ふしの雪

倭の事



正月六日

かべの

たいの

あつた

ふた



宗鑑

六



長閑丸の
ひらね
の

きり
の
秋
の
月

長閑丸の夜

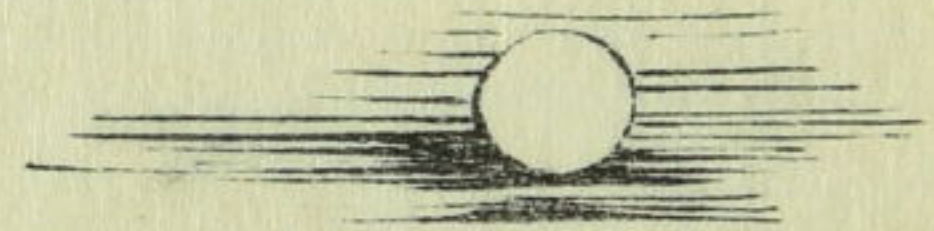


松
の
影
の
ま
は
り

五

蕉芭

俳諧巻九



紫の

秋の



吟季

春の

三秋

月
日
星



三千里を風



此の
いり
る
茶へ
か
ま
ま

西の鶴



平
松
也
の
ま
ま
酒
解

故
軒
卷
加

南の立



源氏
 ので
 上げ
 下げ
 いら
 いら
 いら

武の守



花
 梅
 や
 かる
 神
 の
 花

倭古事記 卷九

花のつぼみ



あつらふ
つぼみの
つぼみ
つぼみ
つぼみ
つぼみ
つぼみ
つぼみ
つぼみ
つぼみ

雄長光



つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの
つぼみの

倭物語巻九

傳教大師

伝の 舟の
かみの 舟の
傳り 舟の
舟の 舟の
舟の 舟の



認首法印

傳り 舟の
舟の 舟の
舟の 舟の
舟の 舟の



傳教大師

風をいき
日ハまき
海山
わかる
り
こ
り
あ
ら
ま
ら
あ
ら
ま
ら



何國想

何國想
いつく入通る

人かれバ

此世然

かりの

家

ま



何國想



高松の庵

月

高松の庵

梅

花

林

高松の庵

十三



高松の庵

梅

花

林

高松の庵

高松の庵

傳 故事 卷 九



中 由
 乃 久
 子 吉 げ ハ
 耳 哉
 手 を 阿 々
 人 ぞ 々 々
 其 言 乃 一 乃



一 文 乃
 云 把 々 々
 其 言 乃 一 乃
 何 乃 乃 々 々
 作 へ

重行

ふりつてでもおれ
けろぐまぢやあ
くぬいひん
や梅のこ



御故事巻九

求む

人の心を強めて
心を強とあこる
よめる
孤づいあひ
つらつられど
こつあなる
おりのが
うれ



巻五 川智草書



あまの
まぐさ
おつーや
うじの
かみ
いけ
ま

長子 嘯



人ぶら
あまの
まぐさ
おつーや
うじの
かみ
いけ
ま

倭古事記



酒のそと
めがさく
いふ
十種香
の
まを
てい
ま
く
さ

倭
故
轉
州

十七

